○

戸をたてゝ寝るにはをしき月夜かな

○

初しくれひゝくや木曾の檜笠

○

なめくじも這入りかねたる我が家かな

○

仰向けに明月高き鼻の上

○

ひばりなく野や菜の花の六七里

○

古寺に狸の化けた和尚かな

○

さくら咲て誇るもわづか五六日

○

灰にせばこの骸骨も五千金

○

へだてなき隣同志の雪見かな

○

さゝ波にまかせて鴨の浮巣かな

○

はる風の行衛たつねて花の散る

○

しのぶ夜や月もなさけの頬冠

○

焚きすてしあくたにかすむ三日の月

○

ふるさとのつとにもみぢのにしきかな

○

猫の手もへちまの皮も用ありや

○

御無音といふまに來る師走かな

○

まだとらぬ狸の皮の相場狀

○

邯鄲の稽古もどりのいざりかな

○

西はしくれ東は晴るゝ秋の空

○

灘の酒神戸の魚の馳走かな

○

夕立に虹かけわたす淡路しま

○

笠ぬぎてひさしぶりぞと窓の月

○

國ぶりをうたふなまりも夕蛙

昭和十六年五月廿九日印刷
昭和十六年六月一日發行

防長文化史概略

非賣品

著者　東京市世田谷區代田二丁目七一六　村田峰次郎

發行人　東京市芝區白金今里町九六　伊本直樹

印刷人　東京市澁谷區田每町五　森田亮三

印刷所　東京市麴町區丸ノ内三丁目一二　大日本紙工製作所

發行所　東京市麴町區内幸町二ノ一六　防長倶樂部

不許復製